



丹波市立看護専門学校

で学ぶ

丹波市立看護専門学校は、看護師をめざす人を対象とした専門学校です。年齢や経験の有無にかかわらず、看護の技術を学び、自ら実践することができます。今回は、学校の様子や地域との交流、卒業生の声などを在学生たちと一緒に紹介します。

〒看護専門学校（健康センターミルネ横） ☎ 86 - 7817

1 年生

看護の本質を机上学習、校内実習で学ぶ。



同じ目標を持つ仲間と共に
学ぶ力をつけていきます



2 年生

専門的な知識を深めながら、高度で実践的な看護を学ぶ。



実習に出る前の準備をして、
実際の患者さんにかかわる
ケアする力をつけていきます



3 年生

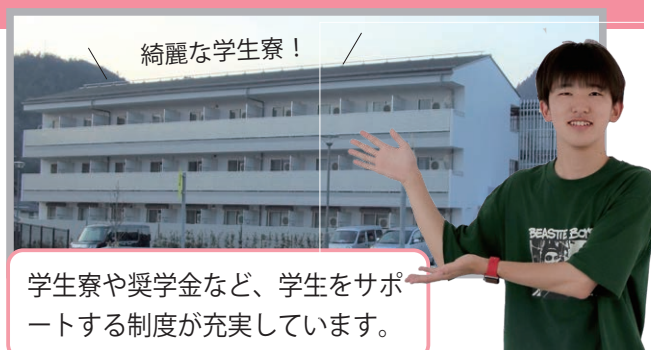
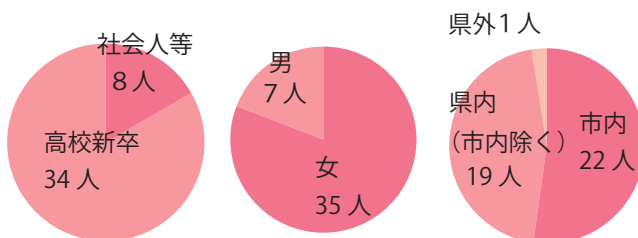
看護の体験学習を通して看護の
実践を身につけ、国家試験に臨む。



実習での経験が看護師に
近づき、成長します



令和5年度入学実績



看護師国家試験合格率

年度	全国 (%)	本校 (%)
令和4年	90.8	97.1
令和3年	91.3	100
令和2年	90.4	94.1
令和元年	89.2	100
平成30年	89.3	97.4
平成29年	89.3	100

全国平均を上回る

高い看護師国家試験合格率



医療の現場で活躍する 卒業生にインタビュー

丹波市立看護専門学校を卒業し、医療の現場で活躍する2人にインタビューしました。

患者さんの 負担と不安を軽減

丹波医療センター勤務
2年目
竹内 涼華さん



私は手術室で医師の近くでメスなどの器具を渡す「器械出し」や手術中の患者さんを介助する「外回り」などの仕事をしています。特に器械出しではスムーズに器具を渡すことで手術が早く終わり、患者さんへの負担の軽減につながったりするなど、自分の看護が直接患者さんに影響するところに責任とやりがいを感じています。

また、手術に不安を感じる患者さんは多いです。お守りを手術室に持ち込めるように調整したことや手術中ずっと患者さんの手を握って励ますこともありました。特殊な現場ではありますが、学校では実習などでたくさんコミュニケーションの大切さを学びました。一つのコミュニケーションエラーで患者さんを危険な目に合わせてしまう恐れのある私の現場では学校での学びが役に立っています。

患者さんの声を 聴ける看護師に

丹波医療センター勤務
4年目
堂本 翔馬さん



私は循環器内科と血液内科で患者さんの術前術後のケアや処置、観察をしています。最新の医療技術や薬などに触れることが多く、日々勉強していますが、人とかかわりやコミュニケーションが必要な現場だと感じています。そのため、看護学校でのグループワークの経験は今の現場でも生かされています。患者さんへの指導や説明がうまく伝わったかなどは退院後の経過などが目に見えてわかるため、やりがいと自信につながります。

患者さんの声を聴ける看護師が私の目標です。表情や環境から読み取ったり、入院前の生活背景や趣味なども含めて情報収集し、より患者さんに寄り添った看護ができるようになりたいです。また、勉強や資格を取得し、たくさんの部署を巡るスペシャリストになって活躍できるように頑張りたいです。

